



日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



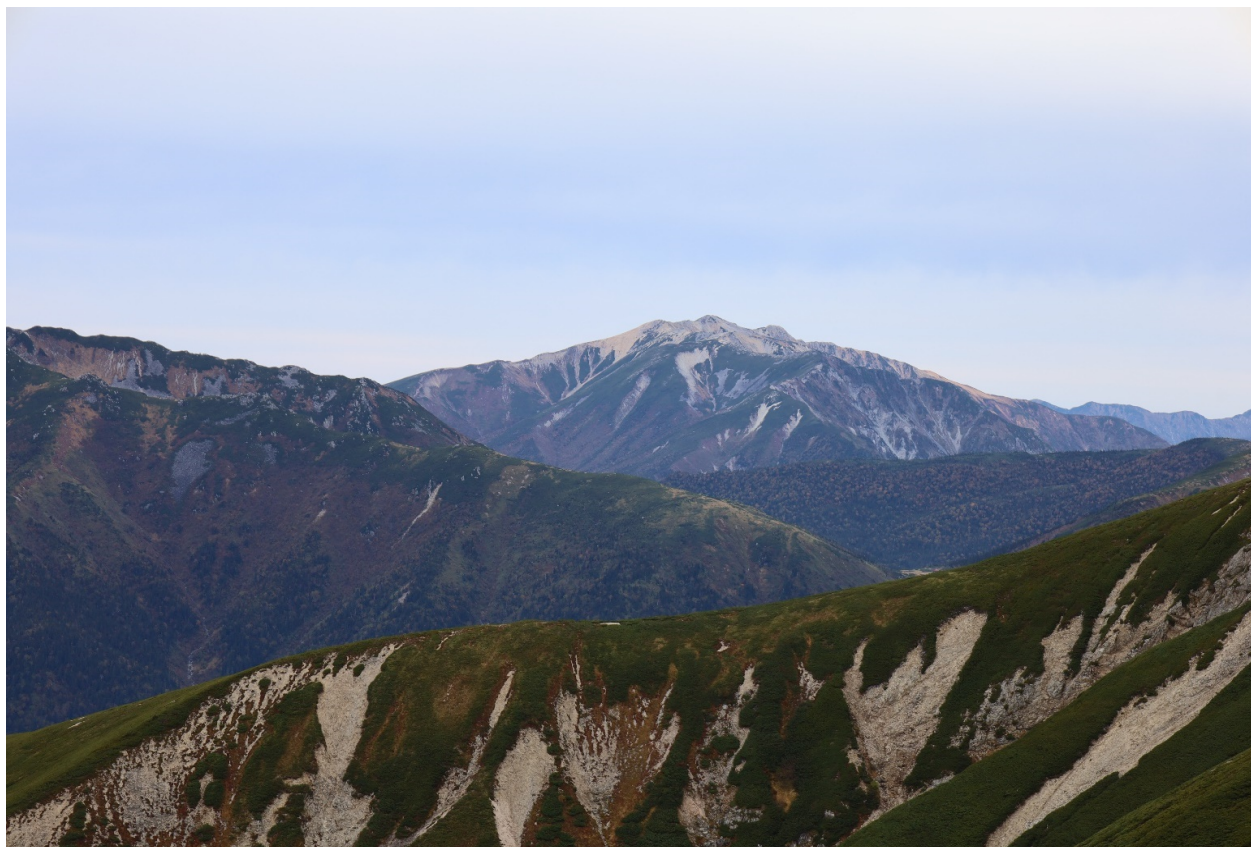
vol.38 薬師岳（日本百名山 48/100）

どっしりとした気品ある山容で、北アルプスの貴婦人と呼ばれる薬師岳（標高2,926m）は、北アルプス北部に位置する立山連峰の主要峰となります。山には〇〇の女王や△△の貴公子などの名が付くこともしばしばあり、個人的には微妙と思う事もありますが、この薬師岳はその名の通り穏やかで美しい山だと思います。北アルプス随一とも言える大きな山体でその存在感を示し、全体に白っぽい色をした明るい山で、縦走路に沿って歩いても花崗岩類が目立つ山です。

また、薬師岳は花の百名山にも選定されており、多くの高山植物が咲き乱れる山でもあります。このような山だからこそ貴婦人なのでしょうが、この山に登った個人的な意見とすれば、貴婦人と言うよりは淑女と言った方がしっくりくるような気がしています。

さて、そんな薬師岳ですが、実は薬師岳と言う名前の山は駒ヶ岳同様、日本全国にいくつもあります。その中でも最高峰の薬師岳が、ここ北アルプスの薬師岳なのです。尚、薬師岳はその名前の通り、古くから山岳信仰の山であり、薬師如来の浄土として信仰を集めてきました。山頂には、薬師如来を祀った祠もあります。

美しい山であり、そこから見える風景も格別、高山植物も多く穏やか。歩行距離、累積標高はアルプスですので多少はありますが、鎖場などの危ないところも特になく、また宿泊できる山小屋も充実していることから、非常に人気の山でもあります。



北アルプス 抜戸岳から笠ヶ岳への縦走路より見る薬師岳

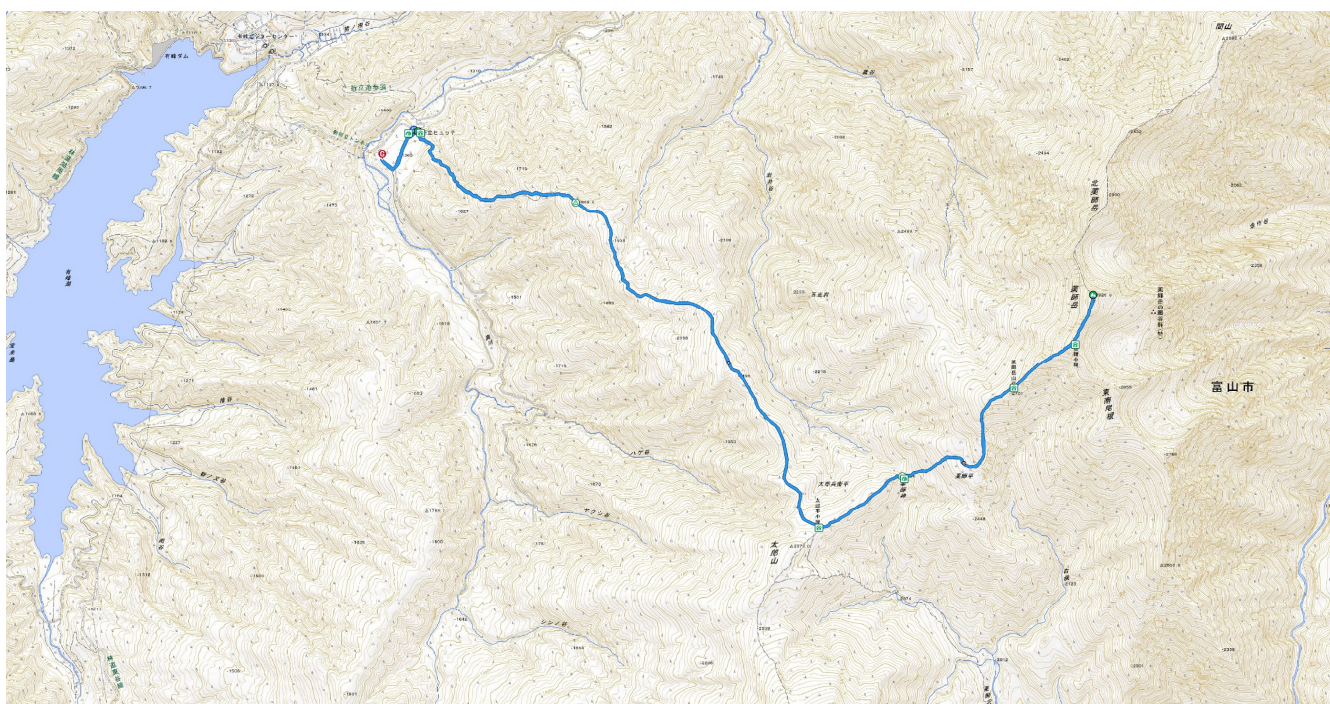
但し、そんな薬師岳も他の山と同じで例に漏れず、冬期などで天候悪化した場合には、痛ましい事故も起こってしまいます。過去には大量遭難事故があり、13名の尊い命がなくなりました。

1963年1月、愛知大学山岳部の学生パーティー13名が極地法の訓練も兼ね豪雪の薬師岳に向かったそうですが、悪天候および猛吹雪のためにルート进行を誤り遭難、疲労凍死または滑落死に至ったとされています。麓には遭難の慰霊碑もあり、登山する者として非常に悲しい気持ちになってしまいます。



出典: ヤマップ地図

以下、登山データです。



登山データ：距離 21.7km 累積標高上り 1,835m 登山区分 日帰り（ヤマップのデータを転記）

さて、今回の登山について報告します。

自宅をいつものように午前3時過ぎに出発、夕方には登山口に到着して車中泊とします。

今回登る薬師岳は、北アルプス北部の立山連峰に位置する事から、アクセス方法は立山までの道のりとまったく同じで、北陸道の立山インターより県道富山立山公園線を南下し登山口のある折立へ向かいます。

実は、折立登山口へのアクセスは有峰林道と言う有料道路を通らなければ到達できません。ただし、この林道には通行可能時間（午前6時～午後8時）が設けられており、早朝から登山をしようと思うと、登山口に車中泊もしくは途中にある宿に宿泊する必要性が出てきます。

また、この林道周辺はツキノワグマの多出没地帯で、私が訪れた約1ヶ月後の8月には数日にわたり駐車場付近で食事中にクマに襲われたり、ザックを持ち去られたり、食料を奪われたり、数台の車のボディに熊の足跡が付いていたりと被害が多発していました。



ダム湖百選 有峰湖



総貯水量 2億2,300万m³ 日本19位

さて、折立登山口の駐車場に16時過ぎに到着しましたが、なんと手前の駐車場は既に満車、少し離れた森の中の大きな駐車場にとめることになりました。既に20台以上の車が駐車していましたが、辺りはなんとも言えない獣の気配で、実際に夜中に起きて車の後の繁みで用足し（トイレまで約600mありで断念）しましたが、そばで大きな動物が動く気配を感じたため、すぐに車へ戻りました。起床は午前1時過ぎ、いつものように着替えたり、食事を摂ったりして2時7分にスタートします。その頃には車も100台以上駐車している状況でしたが、獣の気配が消えることはありませんでした。登山口に到達するまでが途方もなく長く感じます。ただ、何度も書いていますが、不思議と登山を開始すると怖さよりもワクワク感が勝り、登る事に集中してしまいます。



駐車場は真っ暗 この駐車場で襲われています



登山口近くのトイレ付近、ここでも襲われています



折立登山口 スタートします



樹林帯を抜けるまでは、ずっとこんな感じです

まずは、約6km先にある太郎小屋を目指します。小屋までのコースタイムは3時間45分と少しありますが、折立登山口から2時間も樹林帯を歩けば森林限界を迎え、遠くにはまだ夜も明けきらぬ富山市の灯が見えました。

ここからは天国のような穏やかで整備された道が続きます。多少のアップダウンはありますが、気持ち良い登山道です。但し、遠方はガスに覆われており、少し残念な状況でした。

のんびりと歩きながら無事に太郎小屋に到着、太郎小屋の前には前日に宿泊された多くの方々がこれから出発されようとしていました。



樹林帯を抜けると整備された登山道



ハイキング気分です



登山道はゆるゆるですが、標高は既に2,200m



太郎小屋に到着です

私はと言うと、小屋前のベンチで少し休憩して、朝ご飯でエネルギー補給します。さて、ここから薬師岳の山頂までは距離3.9kmで標準コースタイム2時間30分となります。

スタートしてから少しの間は、整備された木道を歩きます。遠方の景色はガスで望めませんでした。が気持ち良い登山道です。こんな天気が微妙な時は、いつものあれに出会います。あれです、ライチョウです。私にとって北アルプス北部地域は雷鳥の遭遇率が高いので見慣れてはいるのですが、出会うとついつい足を止めて見入ってしまいます。

さて、ここからは一旦下って薬師峠のキャンプ場を経由し、その先からはやっと登山道らしい岩場になってきます。



ライチョウ親子に遭遇、保護色でわかりにくい



少し待っていると足元まで来てくれました



一旦下った場所にテント場があります



ゴロゴロ岩の急登を進んで行きます

岩場を越えるとまた緩やかな地形となり、そこからはお花畑ゾーンです。快晴なら良かったのですが、あいにくのガスガスな状況、ここ最近、本当についていません。どうも、天気に見放されています。という事で、またまたライチョウに遭遇です。実はライチョウに会える運を持っているのではなく、ライチョウに会える＝天気が悪い、漢字では雷鳥と書くように、雷が鳴るぐらい天気が悪い日に活発に活動する（天敵の猛禽類等から襲われにくくなる）からだそうです（諸説あり）。

よって、天候が悪くなるとハイマツなどの下から出てくるので人目に付きやすくなります。

さて、そこを過ぎると目の前には薬師小屋です。ここから山頂まで約50分、雰囲気はがらりと変わり白い山を登っていきます。尾根幅は広く、これでは積雪で視界が効かない状況なら間違いなく道迷いが起きそうな雰囲気です。実際に、先に記した大量遭難はこの場所で起きました。



またまた緩やかな登山道となります



お花畑ですが天気は微妙



雪渓とライチョウ



薬師小屋は目の前



薬師小屋を通過し、しばらく登って振り返る



勾配はそれほど急ではないが変化がなく辛い上り

避難小屋を過ぎたあたりから、ガスだけでなく強風も相まって、7月とは思えないほど寒い。ソフトシェルを羽織り風を遮ると体感気温の低下は押さえられます。

夏の低体温症での死亡事故は、疲労も重なってこのように起こっていきます。ただ、穏やかな薬師岳の登山なので体力的にはまったく問題はなく、この状況では死ぬことはまずないので、軽快に山頂を目指します。

そこから間もなくして到着、山頂は予想通りの真っ白で、ここから見えるはずの数々の名峰を拝むことは出来ませんでした。ここまでの登山でこの美しい山に惚れてしまいました。

北アルプスの貴婦人（淑女と呼びたい）と呼ばれる薬師岳、私のもう一度登りたい山リストに入るのは言うまでもありません。



またまた薬師小屋方向を振り返ります



山頂に近づくにつれ岩場の登山道になります



ガスと強風の稜線を歩きます



無事、山頂に到着です

ただし、山頂は非常に寒く長居は出来ません。中には半袖の人もありましたが、ほとんどの人は防寒装備です。たまに、冬の山でも短パン半袖で汗を流しながら登っている人を見かけますが、こういう人は夏場はいったいどうなってしまうのでしょうか？

さて下山ですが、勾配がそれほどきつい山ではなく、また足場も悪い箇所が少ないため楽に下りれます。ただ、ダラダラと下りていく区間も多いことから、距離の割には中々進んでいる感じがしません。実際には時間なりに下山は進んでいるのですが、広々とした風景はメンタル的に結構疲れます。体力的にはまったく問題ないですが、どうも性格的に先が見えすぎるというのは苦手なようです。一般的には北アルプスは早い段階で森林限界を突破し眺望が開け、美しい風景を見ながら歩けるので人気があり、逆に南アルプスは標高の割には視界が一向に開けない樹林帯の為、歩くのが精神的に辛いと言われています。

ただ、九州の山をベースに歩いてきた自分にとってはその逆で、先が分かりにくい樹林帯の方がなんとなく落ち着きます。正直、ガスが晴れて遠くの山々まで見渡せれば気分は違ったのかもしれません。本日に限っては残念なところですが、だからと言って、この山の魅力が削がれる訳ではありません。この下山中はずっと、今後歩くであろう日本百名山の黒部五郎岳や鷲羽岳、水晶岳を今回と同じ折立登山口から登ろうか、新穂高温泉から登ろうかと考えながら歩き、無事に登山口に到着。下山後は、日帰り温泉を堪能し、高速のサービスエリアで車中泊しながら無事に帰宅しました。



寒いので早々に山頂を後にします



テント場まで下りてきました



赤い屋根が太郎小屋、穏やかな山です



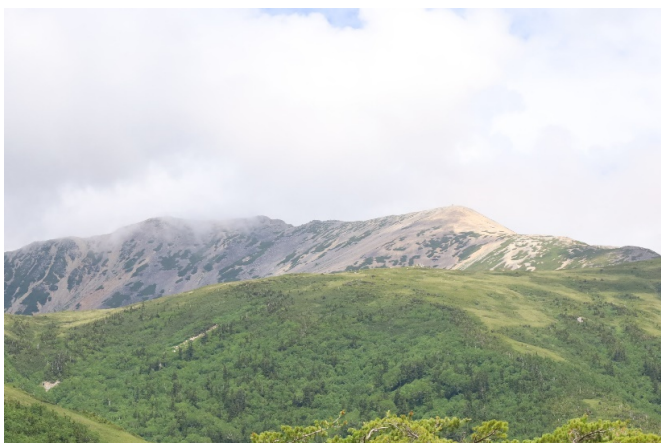
太郎小屋は多くの登山者で賑わってました



太郎小屋を後にします、たぶんまた来ます



遠くに薬師岳の山頂方面が見えます



何度も振り返ってしまいます



無事に下山しました